

新報国製鉄は今年度から3カ年中期計画を始動した。リーマンショック後の半導体・液晶製造装置需要の急減でどん底を味わったが、構造改革や技術開発を突っ走らせ、実質無借金経営を実現し、2016年12月期では過去最高の連結経常利益を稼いだ。創立80周年を迎える29年度に向けた長期ビジョンの下で、基盤作り期間と位置付ける今中計策定の狙いを成瀬正社長に聞いた。

(谷山 恵三)

—— 今期は需要動向の影響で減収減益の見込みですが、それでも売上高経常利益率は14%と業績好調を見込んでいます。

「1月に鑄鋼製造子会社の新報国製鉄三重を吸収合併し、当社は新しいステージに入った。リー

新報国製鉄 新中期計画の狙い

成瀬 正社長に聞く



開発型合金の技術基盤強化

「究極のゼロインバー」実用化へ

マンショック後の構造改革から引き起こされた業績や財務体質が改善したことにより、中計策定でまず重感もある。足元では収益も上がり、(米誌フォーブス)の「16年版アジア優良中小企業200社」に選出されるなど、社外から評価して頂く場面もある。こういふ時が一番危ない。いつ何が起きるか分からない。資金効率は多少

「中計策定の過程が最も重要だと考えて、営業製造、経理、研究など執行役員を中心に約10人が選出されるなど、社外から評価して頂く場面もある。こういふ時が一番危ない。いつ何が起きるか分からない。資金効率は多少

「中計策定の過程が最も重要だと考えて、営業製造、経理、研究など執行役員を中心に約10人が選出されるなど、社外から評価して頂く場面もある。こういふ時が一番危ない。いつ何が起きるか分からない。資金効率は多少

犠牲にするが、リーマンショック級の荒波が2年続いても潰れない会社にする。月商の4倍程度の手持ち現預金を持つことで「三重三重の安全装置」とすることにした。

「社員が高いモチベーションを持ち続けられる会社であることも重要だ。当社の規模で100

「熱膨張係数が0ppm、ヤング率が170GPa、変態点がマイナス197度の「究極のゼロインバー」を開発し、いま実用化に向けた試作品を製作している。またインバー合金の熱膨張係数は徐々に減衰するが、産業技術総合研究所やJAXA(宇宙航空研究開発機構)の協力を頂いて、経年劣化を抑制する成分設計の研究も進めている」

「中計では3年間で8億5千万円の設備投資も計画しています。18年度から旺盛な需要が見込まれるので、鑄物の生産能力を拡大する。今年度だと、売上高50億円の会社にとって年3億円の設備投資負担は大きい。三重工場の炉関係の設備投資はこの会社が生きていくために必要であり、最悪のケースも想定した上で決めていく。増産益が出てくればすぐに回収できるし、需要が増えなくても合理化効果と狙った分野(表参照)による固定費削減で減価償却費をカバーできる。作業安全性の向上に寄与する。一方で研究設備の投資にはブレーキをかけないようになっている」

「自社の鑄物生産では限りがあがる。現在の売上高のうち自社鑄物生産は4割であり、6割は鑄物、機械加工、圧延、鍛造、熱処理などの外注加工ネットワークによるもので、これは大変な財産だ。三重工場をしっかりとさせたい上で、ファブレス事業を大きく伸ばしたい」

「どのような需要分野を狙おうと。」「重点拡販ターゲットと狙った分野(表参照)をこつこつ攻めていく。例えは、宇宙向けは大量に採用される分野ではないが、技術力を最先端まで高められる。錫の定盤はハードディスク用MRヘッド向けで新規開拓が実現しており、砥粒メーカーとタイアップして更に需要先を開拓していく。それぞれの分野で具体的な開発が進んでいる」

成長戦略「重点拡販ターゲット」

製品	業界	ターゲット	顧客
低熱膨張合金	航空	航空機用CFRP金型	航空機部品メーカー
	宇宙	科学衛星/望遠鏡	JAXA NASA
	半導体	半導体検査装置	電子部品メーカー
	工作機械	校正ゲージ等	ゲージ&工作機械メーカー
耐熱鋼	電力	バイオマス発電ボイラ部品	製紙会社、発電ベンチャー
	環境	産業廃棄物焼却炉 部品	産業廃棄物メーカー
非鉄	情報	ハードディスク用MRヘッド	ハードディスクメーカー

「現状の製品開発状況も再確認したそつです。況は。」

